

一般質問通告書

令和4年第3回定例会 No. 1

順位	質問者	質問事項	要旨	質問の相手
1	南 有 隆	1 第7波に伴う新型コロナウイルスについて	(1) 島民や観光客の往来が増え新型コロナウイルス(第7波)の感染者が島内においても増えてきている。飲食時や家庭内感染が主流となっているが与論町としては今後の感染対策をどのように図るか伺いたい。 (2) 最近ではマスクの使用方法も変わってきている。厚生労働省のHPにも熱中症予防の観点から必要のない場面ではマスクを外す事を推奨しているが町としてはどのように町民に周知するのか伺いたい。	町 長 町 長
		2 G I G Aスクール構想によるタブレット端末の活用と取り扱いについて	(1) G I G Aスクール構想によるタブレットを使用した授業を行っていると思うがどの程度授業に利活用しているのか伺いたい。 (2) タブレット端末の家庭内での扱い方やネットトラブルなどの注意喚起はどのように指導しているのか伺いたい。	教 育 長 教 育 長
2	沖 野 一 雄	1 持続可能な本町農業の振興対策について	(1) 環境保全型農業の中心課題とも言うべき、畜産糞尿の処理及び良質の堆肥生産に向けた解決策として、短期間で糞尿の高温発酵及び堆肥化が可能とされる「特許技術・YM 菌」がいま俄に注目されているが、その導入・活用についてご意見を伺いたい。また、導入しない場合、この喫緊課題をどう解決していくお考えか、合わせて伺いたい。 (2) 農業の生産効率化を図る上で、作目別の生産技術及び経営改善に係る農家に対する指導面等において弱さが見られることから、同じ作目間でも農家毎の生産力(技術)において格差の拡がりを生んでいる。この農家個々の格差解消(底辺層の引き上げ)と高い生産技術の普及・平準化を徹底していく必要があると考えるが、今後の対策の進め方などについて伺いたい。 (3) 持続可能な環境保全型農業の振興発展を目指す観点から、農家が利用している有機質肥料(未熟堆肥を含む)と科学肥料の使い分け、農薬等を組み合わせた適正な使用方法など、改善すべき重要課題の1つとなっているが、今後の目標と改善策の具体について伺いたい。	町 長 町 長 町 長

一般質問通告書

令和4年第3回定例会 No. 2

順位	質問者	質問事項	要旨	質問の相手
3	喜山 康三	1 海浜や海浜背後地の景観保全、自由に海浜利用できる環境づくりにどう取り組んでいるか	(1) 船倉海岸をはじめ品覇海岸など海浜背後地の開発が進んでいる。住民や観光客が自由に海浜が利用できる道路確保と景観保全等を行うために地権者や開発業者に対し積極的に協力要請を行うなど、制度作り等に取り組んでいるか。	町長
		2 防災無線運用、組合消防体制について伺いたい	(1) 防災無線の放送内容、放送時間の長さ、火災発生時における通報と火災発生場所が大きく離れている事やデジタル音声は聞き取りにくいなどの問題は依然として改善されていない、見解を伺いたい。 (2) 消防設備導入の在り方、組合負担金の見直しについてはどの様な見解を持っているか伺いたい。	町長
		3 与論町の郷土学習の取り組みについて見解を伺いたい	(1) 郷土学習をどの様に捉え、今まで何をどの様に取り組んできたか。今後、どのような郷土学習を進める考えか伺いたい。	教育長
4	大田 英勝	1 学校の安全対策について	(1) 2021年4月に宮城県白石市の小学校で防球ネットの支柱が倒れ、児童2人が死傷した事故を受け学校設備の詳細な点検が全国で実施された結果、「安全性に問題あり」と判断され設備が多数見つかったとの報道があった。そこで、本町は施設・設備の安全点検は行ったのか。その結果はどうだったのか伺いたい。 (2) 去る8月9日、曾於市の小学校でイチョウの枝が折れて落下し、下で草刈りをしていた校長先生が下敷きとなって亡くなった。このことを受けて、本町ではどのような対策を講じられたのか。	教育長
		2 鹿児島学習定着度調査の結果について	(1) 本年1月に行われた鹿児島学習定着度調査の結果が、誠風第304号で紹介されていた。小学5年生の結果は、各教科とも地区や県を大きく上回っている。中学1年生と中学2年生も地区や県と概ね同等であるが、トータルでは僅かに地区・県を上回っており喜ばしい結果となっている。	教育長

一般質問通告書

令和4年第3回定例会 No. 3

順位	質問者	質問事項	要旨	質問の相手
			各学校における努力や取組に敬意を表するとともに、更なる学力向上のために今後どのように取り組んで行くのか伺いたい。	
5	原 栄徳	1 堆肥センターの機能強化について	(1) 現在の堆肥センターは畜産農家、町民の堆肥利用者にとって十分に満足できる堆肥を生産、提供出来る機能と体制が整っているとは思えない。現況と与論町としての今後の堆肥センター運営のあり方や方向性について伺いたい。	町長
		2 YM菌(超高温好気性発酵菌)の活用、導入について	(1) 現在、世界において産業廃棄物の処理のあり方が問題視されている。与論町でも同じである。経済活動に伴いさまざまな施設から発生する汚泥、食品残渣、焼酎廃液、家畜の糞尿等の有機性発酵物の処理に困っている。YM菌の活用により有機性発酵物を良質な堆肥に変えて土に戻すことが最も重要であり、循環型の社会形成が成り立つと思われるが与論町としての考え方を伺いたい。	町長